

令和7年度 授業者の自己評価結果について

- 1 実施日 2月中旬
- 2 延べ科目数 62科目(62人)
- 3 評価 A:そう思う B:だいたいそう思う,
C:どちらかというところは思わない D:そうは思わない
- 4 表の見方 各項目の上段は%(四捨五入)、下段は延べ人数

	項目	評価			
		A	B	C	D
学習集団づくり	①互いに認め合いながら学習できる学習集団づくりができていた。	26.2	72.1	1.7	0
目標の設定	②授業の系統性を考え、シラバスに位置づけ、ねらいや目標を生徒に示した上で臨んだ。	38.6	52.6	7.0	1.8
	③生徒の実態を十分に考慮して、授業を構成するなど、計画をたてて行った。	35.6	61.0	3.4	0
	④授業のねらいや目標が達成できた。	16.4	68.9	13.1	1.6
教材・教具の工夫等	⑤準備した教材・教具や授業の展開のしかたは適切であった。	19.0	69.0	10.3	1.7
	⑥授業でICTを活用した学習活動を行った。	26.7	16.7	26.7	29.9
発問・指示の適切さ	⑦生徒の理解を助けるように、発問や指示を適切に行った。	28.1	68.4	0	3.5
活動の場の構成	⑧生徒は、意欲的に学習に取り組んでいた。	47.5	49.1	3.4	0
	⑨授業に集中しやすい環境や雰囲気形成できた。	23.3	66.7	8.3	1.7
	⑩一方的な説明だけでなく、生徒が主体的に活動する場面を設けた。	36.2	44.8	19.0	0
	⑪生徒の発表などに対して、意欲を引き出すように働きかけた。	25.4	66.1	6.8	1.7
個の学習の成立	⑫生徒一人ひとりの学習状況の把握に努め、必要な支援を行った。	22.0	71.2	6.8	0

5 分析

- (1)高い自己評価(A、Bが90%以上) 項目:①、②、③、⑦、⑧、⑨、⑪、⑫
- (2)低い自己評価(C、Dが10%以上) 項目:④、⑤、⑥、⑨、⑩
- (3)改善が必要な評価(C、Dが15%以上) 項目:⑥、⑩

※生徒の学びの状況を正確に把握し、「授業のねらい・目標」を明確にししながら「授業の展開」を工夫し、学びへの興味関心を引き出す授業を目指す必要がある。